

令和5年度不登校児童生徒の自立支援ネットワーク推進会議 議事概要

1 日時 令和5年11月20日(月) 10:00~11:45 対面とオンラインのハイブリッド開催

2 次第

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 | 開 会 |
| 2 | あいさつ |
| 3 | 委員紹介 |
| 4 | 報 告 |
| | (1) 令和5年度の事業及び令和6年度以降の事業計画について |
| | (2) 不登校児童生徒の自立支援に係る地区ネットワーク会議について |
| 5 | 協 議 |
| | (1) 社会的自立をめざした不登校児童生徒とその保護者の支援について |
| | (2) その他 |
| 6 | そ の 他 個人情報 の取扱いについて |
| 7 | 閉 会 |

3 報告について 【(2) 不登校児童生徒の自立支援に係る地区ネットワーク会議】

- ・ 直接、顔を合わせて話し合いができたので、互いの取組みや活動状況を知ることができた。また、地区ネットワーク会議後、相談窓口を周知するためのちらしやガイドラインの作成に取り組む自治体もみられた。
- ・ 民間支援団体の取組みや、学校以外の支援の場を、教職員に対してどのように伝えていくかが課題である。
- ・ 今後、どのような方に地区ネットワークの会議に参加していただき、地区ごとのネットワークの充実を図っていくかを検討していく。

4 協議について

社会的自立に向けて

- ・ 【民間支援団体より】不登校児童生徒を取り巻く環境が大切であり、特に保護者は環境の中で大きな要素を占めている。
- ・ 【民間支援団体より】子どもの個性や特性に応じ、ニーズや希望がかなえられるような場所の提供や学びの形態が必要になってくる。
- ・ 【学識経験者より】保護者に対して、不登校の児童生徒であっても、いろいろな学びを通じて、社会復帰している実態があるということを伝えている。

不登校の未然防止に向けて

- ・ 【民間支援団体・学校より】SOSを出す力を児童生徒に育みつつ、保護者もSOSを出しやすい関係づくりや相談機関の周知が必要である。
- ・ 【学校より】家庭や地域のつながりが強い地域ほど、不登校児童生徒の数が少ない傾向にある。

連携のあり方

- ・ 【民間支援団体より】民間支援団体としては、学校や行政からしてほしいことを具体的に言っていただけるとありがたい。
- ・ 【民間支援団体より】一つの支援・相談機関や団体のみでは支援が難しい場合、連携・役割分担しながら支援を行っているケースが出てきている。
- ・ 【民間支援団体より】存在や活動を保護者や学校の先生方に知っていただきたい。その上で、学校の先生方との連携をどのように図っていくかを今後も考えていきたい。
- ・ 【学校より】不登校の理由や原因、状況が多様化しており、一括りで対応することに難しさを感じており、個々人のニーズに合った支援の重要性も感じている。このような状況の中で、多様なネットワークが構築されていることが心強い。
- ・ 【民間支援団体より】市の不登校関係の会議で保護者（親の会の方）が出席して意見を述べた自治体がある。保護者も取り込みながら連携していきたい。
- ・ 【学識経験者より】不登校児童生徒も高校に進学しているので、今後は、高校やハローワーク、障がい者の就労支援センターとの協働も見据えていきたい。
- ・ 【教育・福祉行政関係者より】相談機関へつなぐことだけを目的にせず、孤独や孤立対策のための仕組化、各支援者・機関の質の担保も必要である。

不登校児童生徒やその保護者の支援について

- ・ 【民間支援団体・学校より】兄弟で不登校になっている場合や、保護者に困り感がない場合などもある。また、様々な支援を受けられない不登校児童生徒もいる。だからこそ、家庭への支援が、大切になってくる。また、一人ひとりに応じた対応が必要。
- ・ 【学識経験者より】学校では、不登校の数字には表れないが、不登校の傾向がある児童生徒の支援も行っており、このような児童生徒に対する支援も必要である。
- ・ 【学識経験者より】保護者の中には、一見すると不登校について悩んでいないように見える場合もあるが、どうすればいいのかと不安を常にもっている。
- ・ 【民間支援団体・学識経験者より】入学時に、保護者に対して、学校以外の相談できる窓口や機関、民間支援団体等の情報を保護者に伝えることが有効である。
- ・ 【教育・福祉行政関係者より】保護者の自己決定を大切にし、保護者が自ら適切な支援を見つけられるように環境を充実させていく。
- ・ 【教育支援センター職員より】悩みを抱える保護者どうして話し合う場を設けたり、定期的に話し合ったりする場を設定している。
- ・ 【教育支援センター職員より】教育支援センターが学校と保護者や本人の間に入り、関係づくりを一歩ずつ進めていくようにしている。
- ・ 【学識経験者より】校内教育支援センターの設備や、スタッフの充実を図り、不登校児童生徒の居場所となるようにしてほしい。
- ・ 【学識経験者より】例えば、不登校の児童生徒は故障しているわけではなく、ガソリンが不足した状態。いかに各支援機関がその子どもに合ったガソリンを見極めて、入れてあげられるかが大切。
- ・ 【学識経験者より】発達障害の二次障害からの不登校や、依存症からの不登校もあるので、特別支援教育の視点からの不登校支援も必要になってきている。